

検査情報月報



2017
5011
6月

横浜市衛生研究所

平成29年6月号 目次

【トピックス】

平成28年度 家庭用品検査結果	1
アレルギー物質を含む食品の検査結果	3

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 5月	5
-------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	9
---------------------	---

平成28年度 家庭用品検査結果

家庭用品とは、衣料品や洗剤など私たちが日常生活で使用している生活用品のことをいいます。家庭用品担当では、乳幼児(生後24か月以下)用の繊維製品(よだれ掛けなど)、乳幼児用以外の繊維製品(手袋、くつ下、えり飾りなど)および家庭用化学製品(家庭用接着剤、塗料、エアゾル製品、洗剤など)について、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」(家庭用品規制法)に基づき検査を行っています。

平成28年度に規制基準に関する検査で取り扱った検体数は57件、延べ検査項目数は384件でした。検査の結果、規制基準を超えた検体はありませんでした(表1)。参考に、規制基準を示しました(表2)。

なお、平成28年4月1日から、新たにアゾ化合物の基準が施行され、また、トリフェニル錫化合物、トリブチル錫化合物及びホルムアルデヒドの試験法が改正されました。当所では、これらに対応し、検査を行っています。

表1 平成28年度 家庭用品検査検体内訳および検査結果

	検体数	違反検体数	検査項目数	検査項目内訳															
				ホルムアルデヒド ^{*1}	ホルムアルデヒド ^{*2}	有機水銀化合物	トリフェニル錫化合物	トリブチル錫化合物	デイルドリン	DTTB ^{*3}	水酸化ナトリウム又は水酸化カリウム	メタノール	テトラクロロエチレン	トリクロロエチレン	アゾ化合物 ^{*4}	容器試験			
																漏水試験	落下試験	耐酸性・アルカリ性試験	圧縮変形試験
繊維製品																			
よだれ掛け	9	0	9	9															
中衣	13	0	128	8									120						
外衣	4	0	4	4															
手袋	1	0	26				1	1					24						
くつ下	12	0	58	10									48						
帽子	3	0	51	1				1	1				48						
えり飾り	3	0	72										72						
家庭用化学製品																			
家庭用洗剤	2	0	10								2				2	2	2	2	
家庭用エアゾル製品	2	0	6									2	2	2					
くつクリーム	1	0	3			1	1	1											
家庭用塗料	2	0	6			2	2	2											
家庭用接着剤	3	0	9			3	3	3											
つけまつ毛等用接着剤	2	0	2		2														
合計	57	0	384	32	2	6	6	6	2	2	2	2	2	2	312	2	2	2	2

表2 家庭用品検査項目および規制基準

検査項目	用途	検査対象	規制基準	主な健康被害
ホルムアルデヒド	樹脂加工剤	乳幼児(生後24か月以下)用繊維製品	吸光度差が0.05以下 または16 μg/g以下	粘膜刺激、 皮膚アレルギー
		乳幼児用以外の繊維製品、つけまつげ等用接着剤	75 μg/g以下	
有機水銀化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、靴墨、靴クリーム、ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	検出しないこと	中枢神経障害、 皮膚障害
トリフェニル錫化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、靴墨、靴クリーム、ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	錫として1 μg/g以下	経皮・経口毒性、 皮膚刺激性
トリブチル錫化合物	防菌防カビ剤	家庭用塗料、靴墨、靴クリーム、ワックス、繊維製品、家庭用接着剤	錫として1 μg/g以下	経皮・経口毒性、 皮膚刺激性
ディルドリン	防虫加工剤	繊維製品	30 μg/g以下	肝機能障害、 中枢神経障害
DTTB*3	防虫加工剤	繊維製品	30 μg/g以下	肝臓障害、 生殖機能障害
水酸化ナトリウム 水酸化カリウム	洗浄剤	家庭用洗浄剤	アルカリの量として 5%以下	皮膚障害、 粘膜の炎症
メタノール	溶剤	家庭用エアゾル製品	5%以下	視神経障害
テトラクロロエチレン	溶剤、汚れ落とし、シミ取り	家庭用エアゾル製品 家庭用洗浄剤	0.1%以下	肝障害、腎障害、 中枢神経障害
トリクロロエチレン	溶剤、汚れ落とし、シミ取り	家庭用エアゾル製品 家庭用洗浄剤	0.1%以下	肝障害、腎障害、 中枢神経障害、 皮膚障害
アゾ化合物*4	染料	繊維製品 革製品	特定芳香族アミンとして30 μg/g以下	発がん性
容器試験		住宅用・家庭用洗浄剤	各試験(漏水、落下、耐酸性・耐アルカリ性、圧縮変形)による容器強度を有すること	

*1 生後24か月以下

*2 生後24か月以下を除く

*3 DTTB:4,6-ジクロロ-7-(2,4,5-トリクロロフェノキシ)-2-トリフルオルメチルベンズイミダゾール

*4 アゾ化合物とは、アゾ基(R-N=N-R')を持つ有機化合物の総称であり、色素として様々な製品に幅広く使用されています。しかし、一部のアゾ化合物は人の皮膚や腸内の細菌および人体内の酵素により還元され、発がん性を有する芳香族第一級アミンを生成します。新設された基準は、これらの発がん性を有するもしくは疑われている芳香族第一級アミン(24種類の「特定芳香族アミン」)を容易に生成するアゾ化合物を規制しています。規制の対象項目は「アゾ化合物」ですが、試験方法はアゾ化合物自体を測定するのではなく、還元した時に生ずる24種類の「特定芳香族アミン」を測定する方法となっています。

【 理化学検査研究課 家庭用品担当 】

アレルギー物質を含む食品の検査結果

現在、食物アレルギーの原因となることが知られている原材料のうち、発症数が多いものや重篤度の高いもの7品目(卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに)が特定原材料として指定されています。加工食品等にこれらの特定原材料を含む場合、その旨を表示することが義務付けられています。しかし、加工食品では表示の記載漏れや混入(コンタミネーション)等により、食物アレルギーをもつ人がその食品を食べた場合、じん麻疹、下痢、呼吸困難などのアレルギー症状を引き起こし、死に至るケースも考えられます。そのため、横浜市では主に食品に特定原材料の表示がないものの検査を行い、食品の安全を確認しています。

平成28年11月、平成29年1月及び2月に各区福祉保健センターが市内の保育園、小学校等にて収去した特定原材料除去食などについて、卵、乳の検査を行いました。これらの検査結果を報告します。

1 卵の検査

市内の保育園、小学校などから収去した卵除去給食等について、卵の検査を52検体行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表1)。

表1 卵の検査結果

食品	スクリーニング試験		確認試験	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類	48	0	-	-
菓子類	4	0	-	-
合計	52	0	-	-

2 乳の検査

市内の輸入業者、保育園、小学校などから収去した原材料に乳を使用していない食品や乳除去給食等について、乳の検査を31検体行いました。

ELISA法によるスクリーニング試験の結果、30検体は陰性(10ppm未満)で、1検体は陽性でした(表2)。

陽性となった検体(菓子類:チョコレート)は、ウェスタンブロット法による確認試験でも陽性となりました。この製品には、「乳、卵を含む製品と同じ工場で製造」という注意喚起の表示があり、原料に乳の使用がないことから、製造ライン共用による混入の可能性が考えられました。

表2 乳の検査結果

食品	スクリーニング試験		確認試験	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類	23	0	-	-
菓子類	8	1	1	1
合計	31	1	1	1

※ アレルギー物質の検査では、まず、比較的簡便な検査法で陽性の可能性のある検体を選び出し(スクリーニング)、その後、別の検査法で陽性の確認を行っています。

ELISA法によるスクリーニング試験は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法ですが、食品の加工度合いや使用原材料によっては、偽陽性となる場合があります。そのため、スクリーニング試験で陽性となった場合は確認試験を行っています。確認試験にはウェスタンブロット法とPCR法の2種類があります。卵、乳については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウェスタンブロット法を、また、小麦、そば、落花生、えび、かにについては、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認しています。

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 5月

《今月のトピックス》

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が増加しています。
- 咽頭結膜熱の報告数が増加傾向にあります。
- 手足口病の報告数が増加傾向にあります。

◇ 全数把握の対象

〈5月期に報告された全数把握疾患〉

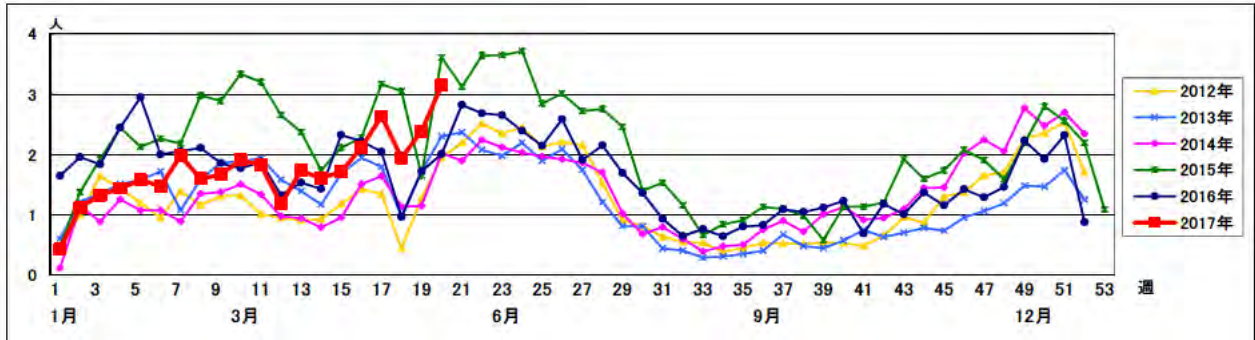
腸管出血性大腸菌感染症	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
A型肝炎	3件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	5件
レジオネラ症	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
アメーバ赤痢	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	16件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件	水痘(入院例に限る)	2件
急性脳炎	4件	梅毒	5件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O26の報告が2件の報告がありました。1件はベトナムでの感染が推定され、1件は感染地域等不明です。
- 2 A型肝炎: 3件の報告があり、うち2件は国内での経口感染と推定され、1件は感染経路等不明です。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型の報告が1件、無症状病原体保有者が1件ありました。感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 2件の腸管アメーバ症の報告がありました。感染経路はいずれも国内で、1件は経口感染、1件は感染経路等不明でした。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 2件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 6 急性脳炎: インフルエンザウイルスB型疑いの報告が1件、ロタウイルスによる報告が1件、病原体不明の報告が2件ありました。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: G群の報告が1件ありました。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSの報告が1件(同性間性的接触)、無症状病原体保有者の報告が4件(異性間性的接触が3件(国内1件、韓国1件、インドネシア1件)、感染経路等不明が1件)ありました。5件とも男性でした。
- 9 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 70歳代の報告が1件(ワクチン接種歴は不明)、小児の報告が1件(ワクチン接種歴1回あり)ありました。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症: 16件の報告があり、うち5件の小児で、うち4件についてはワクチン接種歴が確認されましたが、1件の乳児はワクチン接種歴なしでした。11件(30~80歳代)については1件のみワクチン接種歴が確認されましたが、4件はワクチン接種歴がなく、6件はワクチン接種歴が不明でした。
- 11 水痘(入院例に限る): 40歳代の臨床診断例の報告が1件、小児の検査診断例が1件ありました。ワクチン接種歴は確認できませんでした。
- 12 梅毒: 5件の報告(早期顕症梅毒Ⅰ期2件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件)がありました。いずれも男性で、国内での感染が推定されます。感染経路はいずれも性的接触で、異性間の性的接触が4件、詳細不明の性的接触が1件でした。

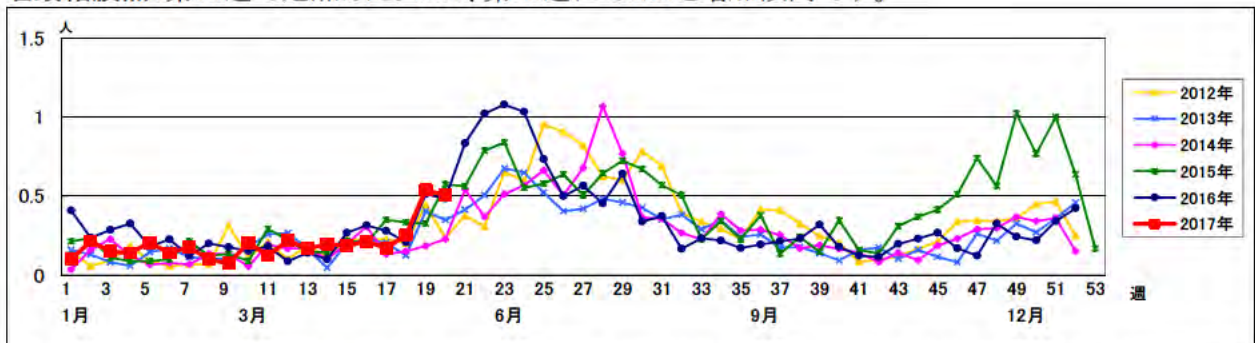
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第17週	4月24日～4月30日
第18週	5月1日～5月7日
第19週	5月8日～5月14日
第20週	5月15日～5月21日

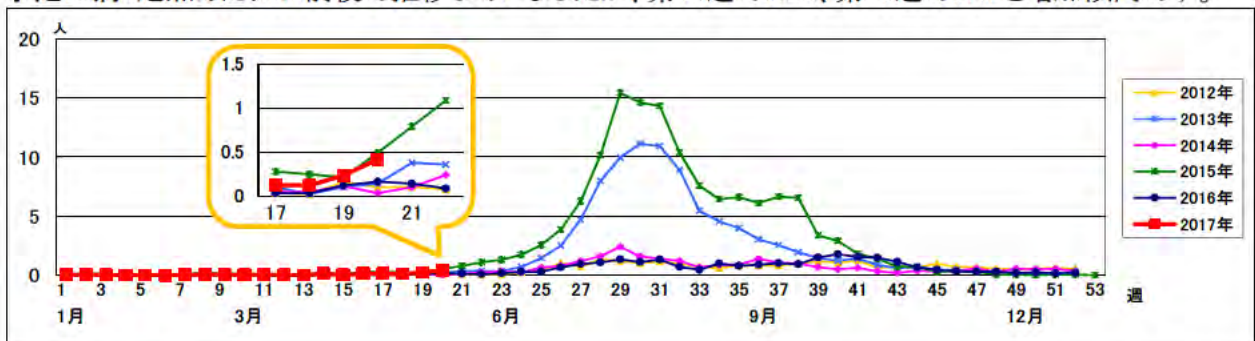
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 第19週で定点あたり2.39、第20週で3.15と増加傾向です。



2 咽頭結膜熱: 第19週で定点あたり0.54、第20週にて0.51と増加傾向です。



3 手足口病: 定点あたり0.1前後で推移していましたが、第19週で0.24、第20週で0.42と増加傾向です。



4 性感染症(4月)

性器クラミジア感染症	男性:26件	女性:17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:6件	女性:6件
尖圭コンジローマ	男性:8件	女性:3件	淋菌感染症	男性:7件	女性:1件

5 基幹定点週報

	第17週	第18週	第19週	第20週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.33	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.25	0.33	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	1.00	0.25	0.67	0.00

6 基幹定点月報(4月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件		—

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

5月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点43件、内科定点15件、眼科定点2件、基幹定点10件で、定点外医療機関からは2件でした。

6月9日現在、表に示した各種ウイルスの分離株17例と遺伝子25例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(5月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	R S 感 染 症	ア デ ノ 感 染 症 *2	胃 腸 炎	流 行 性 耳 下 腺 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	危 急 事 態 疑 い	乳 幼 児 突 発 性
アデノ 1型	1									
アデノ 型未同定	1				1					
インフルエンザ AH3型N2			3							
インフルエンザ B型山形系統	1	1	7							
パラインフルエンザ 3型	1	1								
ムンプス							1	1		
ヒトボカ		3								
ヒトメタニューモ	4	4	1	1						
RS				1						
ライノ		1	2							1
コクサッキー A9型		1								
ヒトコロナ OC43型	1									
ノロ						1				
サポ						1				
アストロ						1				
合計	3 6	1 10	10 3	2	1	3	1	1		1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:咽頭結膜熱を含む

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

5月の「感染性胃腸炎」は小児科定点から3件、基幹定点から腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT1&2)と *Salmonella* Schwarzengrundの2件、定点以外の医療機関からは腸管出血性大腸菌(O26:H11,VT1)2件と *Salmonella* Choleraesuisの3件でした。

「その他の感染症」は小児科定点から4件、基幹定点から5件、定点以外の医療機関からが5件でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(5月)

感染性胃腸炎						
検査年月 定点の区別 件数	5月			2017年1月～5月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌						1
腸管出血性大腸菌		1	2		3	6
腸管凝集性大腸菌					4	
チフス菌					1	
サルモネラ属菌		1	1		5	3
不検出	3	0	0	4	9	1
その他の感染症						
検査年月 定点の区別 件数	5月			2017年1月～5月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1	1		6		
	T4			3		
	T6	2		3		
	T12	1		1		
	T B3264			1		
	型別不能			1		
B群溶血性レンサ球菌						3
G群溶血性レンサ球菌		1			2	2
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						2
バンコマイシン耐性腸球菌						4
レジオネラ属菌						3
インフルエンザ菌			2	1		3
肺炎球菌		1	3		4	9
結核菌					20	44
百日咳菌					2	
緑膿菌		1			1	
その他		2			44	15
不検出	0	0	0	1	2	5

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成29年5月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数

平成29年5月の総アクセス数は、84,692件でした。前月に比べ約16%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*167.2%、保健情報12.0%、食品衛生3.9%、検査情報月報3.7%、生活環境衛生3.0%、薬事0.6%でした。

*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

5月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は「大麻(マリファナ)について」、2位は「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」、3位は「横浜市感染症情報センタートップページ」でした。「大麻(マリファナ)について」のアクセス件数は、継続的に上位を占めています。また、学校行事の関連として、「ぎょう虫(蟯虫)症について」が、9位に入っています。

表1 平成29年5月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	大麻(マリファナ)について	6,400
2	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,421
3	横浜市感染症情報センタートップページ	3,288
4	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,709
5	衛生研究所トップページ	2,295
6	横浜市インフルエンザ流行情報18号	1,737
7	EBウイルスと伝染性単核症について	1,484
8	ノロウイルスによる感染性胃腸炎について	1,266
9	ぎょう虫(蟯虫)症について	1,033
10	ボツリヌス症について	929

データ提供: 市民局広報課

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

(3) 電子メールによる問い合わせ

平成29年5月の問い合わせは、4件でした(表2)。

表2 平成29年5月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
「各国の予防接種」の資料を講演会参加者へ配布する件について	1	感染症・疫学情報課
蚊のモニタリング調査について	1	微生物検査研究課
電子たばこに関するヨコハマeアンケート結果について	1	理化学検査研究課
リンクの申請について	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事

平成29年5月に追加・更新した主な記事は、15件でした(表3)。

表3 平成29年5月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
5月 1日	病原体定点からのウイルス検出状況(平成29年)	更新
5月 1日	感染症に気をつけよう(5月号)	掲載
5月 2日	コスタリカ共和国のこどもの定期予防接種について	掲載
5月 9日	メキシコのこどもの定期予防接種について	更新
5月10日	コロンビアのこどもの定期予防接種について	更新
5月12日	エルサルバドルのこどもの定期予防接種について	掲載
5月15日	エクアドルのこどもの定期予防接種について	掲載
5月16日	ホンジュラスのこどもの定期予防接種について	掲載
5月18日	チリのこどもの定期予防接種について	更新
5月24日	平成26年度協会けんぽ神奈川支部加入者(横浜市在住)保健指導の効果(平成25年度から平成26年度)＜問診結果からみた意識・行動の変化＞	掲載
5月24日	平成26年度協会けんぽ神奈川支部加入者(横浜市在住)健診データ業態別分析結果	掲載
5月25日	◆パンフレット◆ 熱中症に注意しましょう!	更新
5月29日	病原体定点からのウイルス検出状況(平成29年)	更新
5月31日	パラグアイのこどもの定期予防接種について	掲載
5月31日	感染症に気をつけよう(6月号)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】